

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

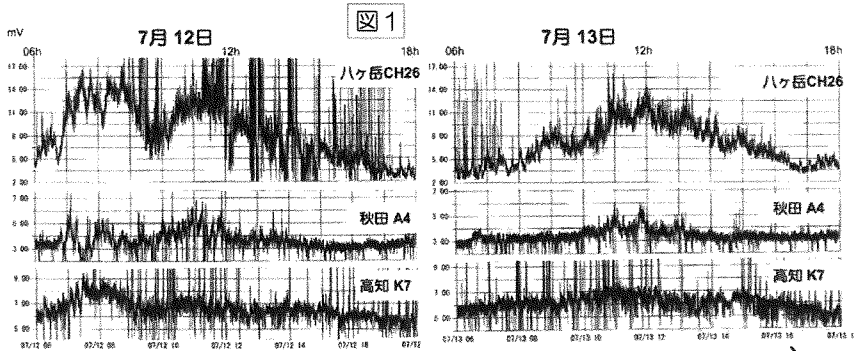
続報 No353

2023.08/30 (水曜) 12:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所

Yatsugatake South Base Observatory 〒409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は28年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様へ出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。No1778に関しては解説資料32~35頁参照



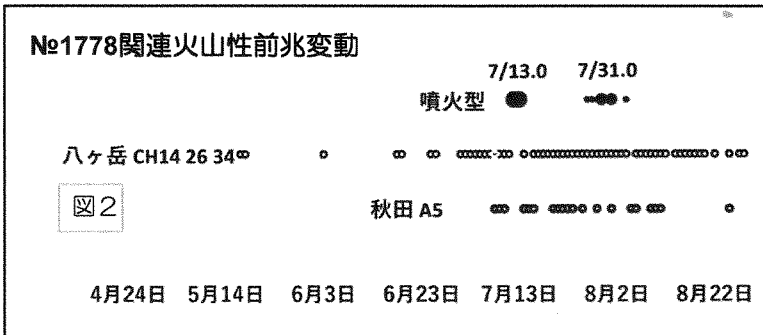
No1778関連火山噴火型前兆変動観測

2023年07月12日と13日に図1のとおり、火山噴火型に分類される変動を観測致しました。八ヶ岳南麓に大きく観測され、秋田観測点と高知観測点にも微弱に同期変動が観測されました。図1の様な火山噴火型前兆変動は一日だけの出現の場合は火山直下または火山近傍領域での震源の極めて浅い群発地震または火山性地震が発生していますが、複数日出現した場合には火山噴火が発生しています。複数日噴火型がなかったケースはありません。

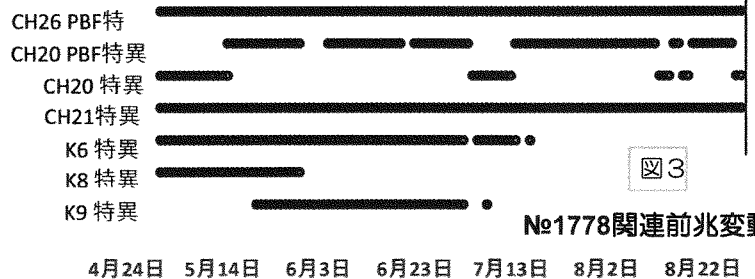
しかしながら今回は図2のとおり、八ヶ岳南麓と秋田観測点に火山性前兆変動が観測される中で噴火型が出現致しました。このような出現形態は初めて体験する現象です。単独での火山噴火型の出現ではないため観測情報でも直近での火山噴火活動は発生しないことを報告。

噴火型前兆変動も八ヶ岳南麓に最も強く出現していることから、八ヶ岳に極めて近い火山が推定されます。さらに噴火型ではない火山性前兆変動も八ヶ岳に顕著で秋田観測点にも出現していることから、八ヶ岳に近く八ヶ岳より北側火山(浅間山等)の可能性が強く示唆されること等、直近での活動が推定されないこと等からNo1778関連で出現した可能性が極めて高いと認識されます。

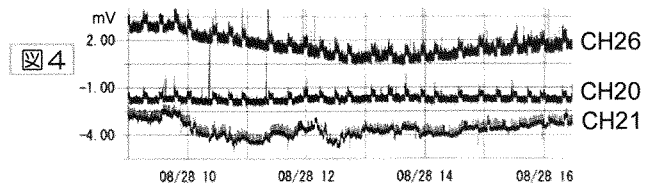
火山噴火型前兆変動は7/31中心にも再び、やや弱く出現しています。これらから、No1778前兆の対応地震活動が発生する際には連動して推定領域内の火山が噴火する可能性も否定はできないと考えられます。



2022.9/03.5 極大 → 2023.8/30.4 継続 → 2024.1/01 以降
2022.7/28.4 極大 → 2023.8/30.4 継続 → 2024.1/14 以降



No1778関連前兆変動は3観測装置の特異変動のみ



No1778前兆は最大30観測装置に前兆変動出現が観測されました。しかし現在は図4のとおり、八ヶ岳のCH21特異変動とCH20とCH26に同期したPBF特異変動のみとなっています。(CH20は時折特異変動に変化) 2022年7/28にPBF極大が、9/3にPBF特異の極大が観測されています。現在PBF特異等が継続しているため、少なくとも2023年の年内に対応地震が発生する可能性は否定できません。3観測装置の変動が終息するのを待ちます。

- ◆ 推定領域：図5の太線領域内(周辺領域含む可能性有)
- 斜線領域：火山近傍 少なくとも震源の一部が斜線域にある可能性高い
- ◆ 推定規模：M8.0±0.3 (関連して火山噴火の可能性も否定困難)
- ◆ 推定時期：少なくとも2023年内での発生の可能性は否定
- ◇ 推定地震種：震源浅い陸域地殻・火山近傍
- ◇ 推定発生時刻：午前09時 ±2 時間 または 午後06時 ± 3 時間

